



知床側の野生動植物の生息・生育状況 などについて学習しました

2月12日に、羅臼町役場の田澤さんを講師に招き、センターの職場内学習会を開催しました。

田澤さんは羅臼ビジターセンターに勤務されており、観光客などに対し、知床半島に関するあらゆる情報を提供されています。

今回は、特に羅臼町側の知床半島に生息・生育している野生動植物の状況、登山者等の入り込み状況について、映像を交えながら約2時間ご指導いただきました。



講師の田澤さん

朝日小から小さな訪問者

地元朝日小の6年生3名が地域の仕事について学ぶために、2月16日にセンターを訪れました。

当日、センターの企画官から、山に行く場合の身支度品（ノコギリ・腰ナタの山道具、ヘルメット、防蜂網、熊スプレーなど）を見せた後、展示室では、森林環境情報システムのライブ映像、動植物の写真などを使ってセンターの仕事内容について説明しました。最後に、種の模型を使って木々が子孫を増やす方法について説明し、約2時間の体験学習を終えました。

世界遺産条約に基づく 世界遺産一覧表への記載 に係る推薦について

1月30日、パリのユネスコ日本政府代表部からユネスコ世界遺産センターに「知床」の推薦書を提出しました。

センターの ホームページ訪問者 ～累計10万人突破

平成10年9月に開設した当センターのホームページへの訪問者が3月5日に10万人を突破しました。

これからもよろしくお願いします。

新しい仲間



2月1日付けで採用になりました^{おおねみずえ}大根瑞江と申します。石川県からはるばる知床までやってきました。

趣味は魚釣りです。特技はどこでも寝られること、何でも食べられることです。せっかく知床まで来たので、今年は山登りに挑戦します。どうぞよろしくお願いします。

知床の森から



北海道森林管理局北見分局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



(写真：歩くスキー)

知床は今

お彼岸を迎え日差しが強くなり、春を感じられるようになりました。今年の冬は例年に比べ暖かったようです。流氷接岸も遅く、昨年は1月中旬に来ましたが、今年は2月1日に水平線に姿を現し、7日に斜里前浜に接岸しました。また16日に流氷接岸初日を観測した網走市では、最近10年間で2番目に遅い記録だそうです。

積雪は猛吹雪が1月にあったため例年より多くなって、斜里からウトロへ向かう国道沿いにエゾシカが雪に埋もれた枯れ草を掘って食べていたり、樹木の皮を食べている姿が例年どおり見られます。木の皮が食べられると樹木は枯れてしまい、森林生態系にとって大変深刻な問題となっています。

海を埋め尽くしている流氷は、風の方向で離れたり押し寄せたりして氷の山を作ったりしています。海表面が顔を出している時などは、越冬のため飛来しているオオワシ、オジロワシの姿を数見ることができます。

知床八景の一つ『オシンコシンの滝』の水は、今年は凍らずに白く流れ落ちています。厳寒期には人通りの少なかったウトロの町も、流氷が来てから観光バスが多くなり、街中に車や人の姿が増え賑やかになりました。



海別岳（うなべつだけ・右後方）と流氷

第68回森林レクリエーション・in知床

『フレベの滝周辺の森林を歩くスキーで散策』を開催
～冬の世界自然遺産候補地を堪能しました～

第68回森林レクリエーション・in知床「フレベの滝周辺の森を歩くスキーで散策」を、3月4日（木）に開催しました。参加者は北見市と斜里町からの16名（男女8名づつ）で、知床の森林を歩くスキーで散策しました。

現地に向かうバスの車窓から、3月としては珍しくびっしりと接岸する流氷を眺めながら現地へ向かいました。

スキーコースは、フレベの滝周辺の原生的な森林を散策し、断崖絶壁に接岸する流氷を眼下に見ながら知床の風景を堪能しました。

当日は風もほとんど無く晴れており、白く雪化粧をした知床連山を目前に見る事ができ、その雄大さに参加者の方々は感激していました。

コース途中では、流氷は恵みをもたらすこと、知床の森林の特徴、シカの樹皮食害が深刻な問題になっていることなど、参加者の方々はインストラクターの解説に耳を傾けていました。

林内ではエゾシカの足跡が縦横に見られ、エゾシカが目の前を悠々と歩き樹皮を食べる姿を見る事ができました。樹皮を食べられた木が多く見られるので、「この木は元気に育つのですか？」などと参加者の方々から心配の声がでていました。

当日はスキーがよく滑る絶好の雪質で、下りでは滑りを楽しむ歓声があがっていました。

知床の深い森林と雪の中に身を置き、静かな自然のたたずまいが感じられる、充実した一日を過ごしていただいたと思います。



食害の説明を聞いています



フレベの滝で記念写真を撮りました

171人の皆様 ありがとうございました

今年度のイベント（9回開催）については、1回の中止もなく、また1人の落伍者やけが人もなく、このフレベのレクinをもって無事終了しました。

森ふれとレクinの参加者数は延べ171名で、複数のイベントに参加していただいた方もいるので、実参加者数は133名でした。

◎参加者ランキング（数値：％）

①性別

女性	71
男性	29

②住所

北見市	43
斜里町	36
網走市	9

③年代

50代	31
60代	26
40代	12

第51回森とのふれあい

「歩くスキーで濤釣沼周辺を散策」を開催

～地元の小学生12名が参加～

第51回森とのふれあい『歩くスキーで濤釣沼周辺を散策』を2月7日（土）に開催しました。

今回は、斜里町立知床博物館（中川 元館長）の『知床海と森の学校』と共同開催の形で行いました。参加者は『知床海と森の学校』のメンバーの中の12名（男子7名、女子5名）で、斜里町内の小学校4年～6年生です。

今回の目的地である「濤釣沼（トウツルトウ）」は、斜里町の西端で小清水町との境にあり、サロマ湖、能取湖、網走湖周辺と共に網走国定公園に指定されています。

当日は朝から晴れており、9時過ぎに現地に着くと、準備体操で体をほぐした後、早速歩くスキーに履き替え林内へ入りました。

アカエゾマツなどの林に入るとすぐに、道を横断してキタキツネの足跡がありました。この足跡は1匹のものでしたが、今の時期はキツネにとって『恋の季節』であり、2匹で歩いていることが多いことなどを学びました。廻りに植えてあるトドマツ、エゾアカマツの特徴や、この林は塩害などから畑の作物などを守ってくれる「潮害防備保安林」に指定されていることも併せて学びました。

海岸線付近の高台まで進むと、今週一部接岸したばかりの流氷を見ることができました。流氷の白色と流氷がない部分の青色とのコントラストを1年ぶりに目の前にして、一同感激していました。



さっそうと滑っていました



樹木の説明を聞いています

更に先に進むと、茶色の葉をつけたままのカシワ林になりました。カシワの葉が枝に長くついている理由を教えてくださいと、「根性あるんだなあ」との声があがりました。

途中、JRの『ノロッコ号』が通ったので懸命に手を振ると、オホーツクの流氷を見ていた乗客の皆さんが、振り返って手を振り返してくれました。

歩くスキーについては、ほとんどが学校の授業などで経験済みで、スムーズにスキーを操っていました。

最後に、スキー板をはずしバスに積み込んでみると、1対のオジロワシが現れ、上空から私たちを見送ってくれているようでした。



流氷をバックに記念写真を撮りました